

社会福祉法人 塩谷福社会

令和 7 年度事業実績報告

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

令和 7 年度 事業実績報告（協議用）

1. 法人総括報告

理事長 川原静雄

令和 7 年度は、前年度に引き続き黒字経営を目指し努めてきたが、利用者の入院が多数あったため、せせらぎ（宿泊）、ワークメイトやグループホームの利用率が目標を下回り、約 500 万円の赤字となり、厳しい経営状況となった。

令和 8 年度は、新たな事業である夕食チームの立ち上げや各事業の利用者の増加に努め、経営改善を図る。また、継続してグループホームの集約や稲穂デイサービスの新たな活動拠点の整備を進めるほか、昨年度導入した個別支援計画ソフトの活用を図り、良質なサービスの提供に努める。

2. 事業部 障がい福祉サービス課

事業部長 浦部祐夫

① 利用率の安定化、経営の安定化

事業計画	進 捗 状 況
利用率の安定化を図るためアピール活動とサービスの質の向上を図る。	令和 7 年度の利用率は稲穂事業所で低迷しなかなか向上させることができなかった。ただし、稲穂デイ活動においては積極的に受け入れ利用率は向上した。高齢期利用者のプログラムを展開できている。住居部門についてはせせらぎでグループホームへの移行が続いたほか入退院が多く空室が目立った一方で、医療機関からの体験利用や他の市町村からの相談も積極的に受けた。グループホームは 4 名増 4 名減となっているが減のうち 2 名は病死による退所となった。また、内部疾患、精神症状の出現による入院者も散見され利用率は安定しなかった。 3 月には稲穂事業所のアピールを市内相談支援事業所や医療機関へ赴いて行っている。

② グループホームの集約と規模の適正化

事業計画	進 捗 状 況
------	---------

点在化するグループホームの集約のため集合住宅を探す。	集約化の拠点として国の入札に参加を計画し長橋地区の集合住宅（元開発局独身寮）を内覧したが建物の劣化がひどく使用には耐えられないこと、修繕に相当の費用が掛かることが見込まれると判断し入札を見送った。 アパートタイプのグループホームあかしあについて空室となっている部屋を契約し、一人暮らしタイプの居室を増やした。若い世代の利用者に人気があり、すぐに入居されている。
③ 次世代を見据えた職員採用。安定して支援ができる体制づくり	
事業計画	進 捗 状 況
人員体制の確保のため常勤職員を採用する。 職種に応じた研修の機会を設け、質の向上を図る。	7月に山本職員を常勤の主任として採用し塩谷地区での体制強化を行った。これにより利用者への処遇を安定させることができている。 グループホームにおいて職員の面談を行い職員体制に対する評価と相談を行った。職場内での風通しの良い体制を心がけた。
④ 高齢利用者へのケアの充実、地域生活者への支援の充実	
事業計画	進 捗 状 況
市内中心部でのサービス資源を改善するための物件を探す。	令和7年度の計画としていた稲穂事業所デイ活動の新拠点については経済的にひっ迫する状況から計画は進んでいない。現在は1階の倉庫を改造したデイルームで作業をしているが手狭になっており、今後の予算組みの中で移転を計画していきたい。 青葉やグループホームでも高齢化は見られるが、できるだけ長く支援しようと努力している成果でもある。できるだけ健康で長く利用していただけるようケアの質を向上させたい。
⑤ 塩谷地区資源の充実（青葉への委託事業）	
事業計画	進 捗 状 況

ルピナス祭の 継続（一般公 開、地域との交 流）	敷地の管理を青葉に委託し、管理・環境の整備に努めた。 ガーデン整備では、プロ（花売業 kusa）にデザイン指導を受けた。およそ 10 年続いた塩谷地区の環境整備（廃屋が点在し雑草が生い茂る環境から一般の方々もくつろげるような環境を目指す）も後半に近づきつつあると感じる。また、既存設備の木工棟等の整理・整頓も進んでいる。将来クラフト教室などを地域資源として開放できることを目指して模索している。 社会との交流、社会貢献の手段としてこの創設の地が用いられる日も近いものと感じている。
---	---

各サービス事業所の評価 ※各サービスの統計については基礎資料を参照されたい。

せせらぎ（宿泊型生活訓練）

R 7 年度 事業計画	①新規利用者導入を適切かつ速やかに進める。 体験利用時のアセスメント（せせらぎサービスと本人のニーズの合致や適性）を適切かつ速やかに見極め、短期間での利用導入を図る。 ②個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。 個々人のニーズに合わせた処遇方針により個別化された支援プログラムの向上を図る。
-------------------------------	--

R 7 年度 事業進捗状況

利用率を維持する 個別プログラムの向 上を図る	① 他相談事業所との関係を大事に維持することが、新しい利用につながっている。年度末へかけて入院、卒寮等が増加し、利用率が緩やかに下降した。新規利用を積極的に受け入れていく。 ② 8 月より個別支援計画作成ソフトを導入した。作成ソフトの枠組みを活用し、支援計画一連の流れを、きちんと行うことができることを目標としている。
目標利用率 80%以上 (平均 11 人以上)	平均利用率 72%、(1 日/10.1 人) 目標へは一步届かず、入院や卒寮など難しい要因もあるが、より積極的な受け入れを進める。

せせらぎ（日中生活訓練）

R 7 年度 事業計画	個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
---------------------------	------------------------------------

R 7 年度 事業進捗状況

本人のストレン グスを生かした支 援プログラムづく りを行なう	引き続き、個別性を生かしたプログラム展開を行っている。実績として、他事業所では継続が困難であった利用者が、当事業プログラムでは、比較的安定し継続利用がなされ、生活の改善がみられている方々が多い。 ただし、個別性を重視するとおのずと多種目の作業やスタッフの個別的対応そして柔軟な対応力が求められることとなり、スタッフの負担が増加傾向にあることが課題である。
目標利用率 100%維持 (平均10人)	平均利用率 103% (1日/10.3人) 宿泊型利用者に加え、通所利用者もあり、現在のところ安定した利用率を維持している。
青葉（継続B）	
R7年度 事業計画	クラブハウス（注）的な運営を方針とし、各々が役割を持ったメンバーの居場所的な空間を創造する。 法人より作業を受託し塩谷公園計画を推進する。 個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
R7年度 事業進捗状況	
参加型就労継続支 援の実施 塩谷公園計画の推進	① クラブハウスモデルの思想に基づき、職員と利用者は、この場を協同して創造していく存在として、職員はスタッフ、利用者をメンバーとして呼称することをスタッフ会議にて確認し共通認識を持てるよう取り組んでいる。 ② 専門家の監修を仰ぎ、公園のレベルをさらに上げていくことができるよう取り組んでいる。 ③ 利用者の体力の低下、閑散期（冬季間）、に対応する新たな作業種目・プログラムを研究している。 ※クラブハウスモデルとは、スタッフと利用者が対等なパートナーとして協働する集合体であることを意識する共同体の形。
目標利用率 90%以上 (平均9人以上) R7工賃目標 10,000円	平均利用率 113% (1日/11.3人) 4月～3月 平均工賃 15,041円 休まず利用する方が増えてきている。利用率は上昇傾向にある。
ケース記録・個別支援計画作成ソフトの導入を図った。個別支援計画の作成・実施・評価の一連の流れは支援の基本であり、このことが安定して合理的・効率的に行い、日常支援に集中できるように、ソフトを活用したい。まだ、ソフトに使用方法に慣れていない段階である。	

グループホーム（GH）幸ほか	
R7年度 事業計画	立地条件の悪いGHの集約化を進め、効率化・集約化を進める。 近郊に集合型のグループホームを模索する。 職員の異動等により、業務の分担に偏りや整理ができていない部分がある。職員の配置体制や役割分担についても再考し改善を図る。 個別支援計画の一連の流れを改善（新様式の導入等）する。
R7年度 事業進捗状況	
物件の集約化・支援体制の効率化を図る	10月に女性利用者が共同タイプからアパートタイプに移動し、男女混合になっている共同生活住居を解消した。けやき・くすのきは職員のケア度の高いGHとして混合で運用している。 競売公示のあった開発局の独身寮の内覧会に参加し、集約化の計画をしたが、修繕や解体等到大金がかかる見込みの為、入札を見送っている。今後も既存アパートの空室の契約や集合型住居の利用を目指して物件を検索する。
目標利用率 90%以上（平均39人以上）	平均利用率 79.4%（1日/34.1人） 内科の病気で入院していた利用者が10月に死去。1月には心不全のため死去され2名が契約終了、高齢者施設に1名が入所、長期入院は1名。その影響もあり本年度の目標は未達だった。体験利用を経て4名がせせらぎから入所。他2名体験中で来年度契約見込み。内部疾患を併発するケースが多く、高齢期にも加え健康面での注意が必要な方も見られ、入退院の多い年度であった。
ワークメイト（就労継続B） 合同庁舎食堂・開発局食堂・マイウェイ就職チーム・デイ活動	
R7年度 事業計画	令和6年度にかけて回復した利用率を安定化させるため、100%以上を目指して利用者の受け入れを行う。また、就職を目指すマイウェイチームでは就職の達成と受け入れを行っていく。 人件費・経費を賄える収支均衡を目指していく。
	高賃金を得る事業所として現在の食堂委託を続け、利用者が豊かに生活できる就労を提供する。利用率の高いデイ活動で利用者の健康を目的とした作業に取り組む。必要に応じて介護保険や医療機関との連携を行う。
	デイ活動では現在の利用者が安心して作業ができるように作業場の改善を行う。稲穂地区の近辺で活動できる物件を模索する。

	目標利用率 100%以上（平均20人以上） R6実績99% 食堂運営 月平均9万～12万円 R6実績107,586円 マイウェイ売店 就職2名 R6実績1名（3月現在） デイ活動 3,000～5,000円 事業所全体で一人平均45,000円を維持する。
R7年度 事業進捗状況	
マイウェイチーム （合同庁舎売店）	1) マイウェイチーム（合同庁舎売店） 平均工賃：19,778円（実習手当含） 常勤職員 1名 メンバー 3名（就職者 0名） 食堂で調理したおにぎり、ザンギ等を中心にカップ麺、菓子等の販売。実際にお客さんと接しながら、就職に必要なスキルの習得を目指している。 売店作業と並行し1名が食堂作業を職場実習として利用している。 見学、体験は数名いたが契約にはつながらなかった。
まんぷく亭1号店 開発局食堂 （旧つぐとチーム）	2) まんぷく亭1号店（開発局食堂） 平均工賃：66,614円 常勤職員 2名 メンバー 5名 食堂営業と並行し、市内B型事業所に昼食弁当、市内GHに夕食、法人GHの夕食も週2回行っている。原材料費の高騰もあり、原価率が高く推移した。職員、利用者が一体となりロス削減に取り組んでいる。 利用者2名は早番参加中。
まんぷく亭2号店 合同庁舎食堂 （旧開発局チーム）	3) まんぷく亭2号店（合同庁舎食堂） 平均工賃：163,217円 常勤職員 2名 非常勤職員 1名 メンバー 6名 + 実習1名（マイウェイより） 高工賃を維持できているが利用者の定員割れが続いている。その中でも利用者同士が助け合って仕事を継続している。1月、2月に各1名が新規登録したが、3月末で2名が利用終了となった。次年度に再度利用者増を目指す。

デイ活動	4) デイ活動 平均工賃： 4,036 円 非常勤職員 2 名 メンバー 13 名 ほとんどの利用者が毎日参加されている。 週 1 回の入浴支援。手芸品等作り、まんぷく亭のお弁当配達作業を継続している。 9 月に 1 階の空きスペースに DIY で簡易トイレを設置。階段利用が不安な女性利用者専用で活用している。 1 名が介護認定を受け介護保険と障害福祉サービスの併用となり、受給者証が残っている間は週 1 回で在宅作業としている。 入院、死去のメンバーが多かったため、利用率が低迷した。3 月に 3 名登録、1 名退院。1 名が利用終了となった。
マイウエイドットコム 単独運営の業務委託作業	5) マイウエイドットコム 平均工賃： 32,172 円 利用者 1 名 せせらぎ写真部の活動補助のほか、地活やすらぎのブログ更新を定期作業として、法人内のニーズに合わせて PC 設定等不定期に入る作業をスポット作業として行っている。
目標利用率 100% 以上 (平均 20 人以上) 目標工賃 月 45,000 円以上	登録者数： 29 名 (1 名入院中。3 月末に 3 名利用終了のため、次年度は 26 名でスタート) 利用率： 86 % (原則日数) 平均工賃： 64,445 円 (※利用者の参加日数に応じて算出) 平均工賃は 64,445 円と目標を上回っている。このまま高工賃を維持していく。 デイ作業の利用者の入院、死去が続き、登録者数に比して利用率が低迷した。3 月に新規に 3 名が利用登録。引き続き登録者確保に努めるとともに、欠席が減るように働きかけていきたい。同時に欠席時対応加算等、請求可能な加算を請求できるように日誌整備を進める。 次年度は就労移行支援体制加算 (93 単位/日) × 2 を算定予定。
相談支援事業所 やすらぎ	
R7 年度 事業計画	計画相談数の維持管理、利用者への適切な支援 小樽市障がい者支援協議会 (福祉行政) への参画
R7 年度 事業進捗状況	

計画相談数の維持管理 利用者への適切な支援	3月末現在157名（4月から22増22減） 増減の多い年度だったが、新規は病院や市役所から相談が入ったほか、他の市町村からせせらぎを利用するために引き継いだ方など塩谷のサービスを使う方は全面的に受け入れている。一方、契約終了になった方は65歳で介護保険に引き継いだ方、退院の見込みなく終了になった方、死去された方も2名おられた。 総数としては今のところ現状維持できる数で推移している。
小樽市障がい者支援協議会（福祉行政）への参画	自立支援協議会の幹事会・全体会に出席し、行政との情報共有や市内相談支援事業所との連携を深めている。さぼーとひろば、保健所とともに地域生活サポート部会で研修を企画し、障がいを持つ方とともにできる健康づくりをテーマに研修を行った。今年度より榎林主任とともに参加している。 後期より、「地域生活支援拠点・精神障がい者にも対応する地域包括ケアシステム」を小樽市で構築するためのワーキンググループに参画し、障害を持つ方が安心して生活するための制度作りを始めている。
地域活動支援センター やすらぎ	
R7年度 事業計画	地域交流と相談の場所の設置 ひきこもり等潜在的なニーズ、困難事例への支援 精神障がいやひきこもりに対する地域への理解啓発に努める
R7年度 事業進捗状況	
地域交流と相談の場所の設置	現在、長橋センターで週3日の交流室開所、土曜日にレクリエーション活動を行った。クリスマスには生涯学習プラザレピオを借りてレクリエーションを行っている。 3月からは1階厨房をキッチンとしてつかうことになり、手狭になるためうまく共有できるように工夫が必要である。 稲穂センターではデイ活動への協力、個別の支援を行っている。
ひきこもり等潜在的なニーズ、困難事例への支援	家族相談会や啓発活動で相談を受けたケースが数件あり、電話や面談でかわり続けている。法人ホームページをみて相談してきた方もあった。市から精神疾患の重い方の相談もあり家族と協力して受診先や転居先を支援した。

精神障がいやひきこもりに対する地域への理解啓発に努める	不登校・ひきこもり家族交流会や小樽市たるさぼと連携しほほえみフェスタや共生フェスに参加、チラシ配布など啓発を行った。5月には家族交流会と連携し小樽市へ要望書を提出するための援助をした。月1回の家族相談会は30回を迎え参加者は10名程度だが、続けていくことで情報発信と相談先の確保ができています。家族相談会やホームページから相談につながるケースもあった。3月には（社福）はるにれの里が主催するひきこもりセミナーで実践報告をした。
定員規模	3月末現在 登録59名 1日平均 22名（稲穂+長橋）

令和7年度4月～3月平均利用実績（ ）は令和6年度4月～3月の実績

	宿泊生活訓練 せせらぎ	日中生活訓練 せせらぎ	継続B 青葉
目標利用率	80%以上	100%維持	90%以上
平均利用率	72%（73%）	103%（106%）	113%（96%）
平均利用者数/定員	10.1人/14人	10.3人/10人	11.3人/10人
	継続B ワークメイト	グループホーム	
目標利用率	100%	90%以上	
平均利用率	84%（99%）	79%（67%）	
平均利用者数/定員	16.7人/20人	34.1人/43人	

※通所事業は原則日数（月の日数-8日）を分母とする

※グループホームはR7年1月に定員を55名から43名に減らしている。

以上

総務部事業報告

理事会資料
総務部長：加藤慎治

下記のとおり、総務部業務報告をいたします。
期間 2025(令和7)年4月1日～2026(令和8)年3月31日

1. 管理業務		備考
登記	6月末	財産変更登記
諸規定改定	6月1日	給与規程改訂 処遇改善手当等について変更
	6月11日	パートタイマー就業規則改訂 時給・処遇改善手当等について
	11月1日	GH運営規程改訂
事業指定等		
行政監査等	12月2日	道実地指導監査(GH)
	12月3日	道実地指導監査(せせらぎ・青葉)
	12月10日	道実地指導監査(ワークメイト)
事業廃止	9月30日	「つぐっと・ひまわり」事業休止→廃止

2. 寄付・寄贈		敬称略
寄付	R7.4月～	計 ¥2,471,543 内:こもれび会より¥1,996,543円 吉田百合子、(有)山口燃料 代表取締役 山口修司、(医)小野眼科医院 理事長 小 野弘美、堀内正臣、竹田康子、 齊藤 順子、笠原純子、後藤よし子、関慶子、 根深正博、羽角幸子、佐々木千枝、(有)塩 野商店、堀内正臣、山口修司、藤田悦 子、(有)山口燃料、古賀清敬関慶子、羽 角幸子、青木正子、佐藤正夫
寄贈	R7.4月～	田治(菓子)、竹田康子(菓子)、ホマレ商 会(飲料)、就労継続支援Bそら(飲 料)、長谷川昭子(飲料)、古屋梅雄(菓 子、野菜)、中野政司(菓子)、大友義光 (飲料)、山田朝子(食品)、岸本芳朗 (ビール)、オートパーク23(食品ハム)、志 和明美(飲料)

3. 助成		
	12月19日	北海道信用金庫ひまわり財団 令和7年度助 成金 50,000円 作業用品購入の為
	12月19日	赤い羽根共同募金 地域歳末たすけあい助成 クリスマス会等プレゼントの為 50,000円

4. 人事・労務		
採用	田中君枝	4/1 活動やすらぎ 非常勤職員
	山本雄平	7/1 せせらぎ 常勤職員 青葉主任任命
	黒澤亘	8/6 せせらぎ 非常勤職員(夜間支援)
	後藤麻里	10/1 多機能型 非常勤職員
	藤原剛	11/4 多機能型 非常勤職員
退職	牧田幸恵	6/30 GH幸 準職員 一身上の都合
	藤田さやか	8/30 せせらぎ 非常勤職員 一身上の都合
休職		
復職		
任命	桎林知佳	4/1 主任
賞罰		

5. その他		
交流事業	6月7日	ルピナス祭り 計112名参加 内訳 当事者31、ご家族12、福祉医療 関係者14、一般22、参加団体33、
その他	9月30日	職場環境改善手当支給 国補助事業 常勤・非常勤全員に支給
事故報告		

議案 2 号 令和 7 年度 決 算 報 告

令和 8 年 5 月 23 日理事会資料
総務部長（統括会計責任者） 加藤慎治

令和 7 年度の決算状況

事業活動資金収支差額合計について、令和 7 年決算は、△542 万円となり再び赤字決算となった。人件費積立金残金 180 万円を取り崩し残金は 0 円となり経営的には大変厳しい状況である。

大きなマイナス要因であった、ワークメイト事業所の赤字は△599 万円と膨らみ大きく経営を圧迫している。他事業所と比較しワークメイト事業所は福祉サービス収入に対して人件費支出が大きい。（グループホーム 51%、せせらぎ・青葉 64%、ワークメイト 79.5%）となっており高い水準となっている。常勤職員比率が多いこと、利用者の伸び悩みという両方の要因がある。また、せせらぎ・GH も入院等により利用率が伸び悩み、これまでのような収益は出ていない。また、人件費も上昇傾向にあり、結果として収支状況は悪化した。

事務費・事業費については、この令和 6 年度、7 年度と増加傾向にある。令和 5 年度以降、諸経費に係る経費が増加している。物価高騰の影響が一因としてあるものと推察される。

人件費については、1000 万円増加している。新規処遇改善加算による影響が約 500 万、昇給等による影響は約 100 万円。せせらぎの新規常勤採用 1 名、GH 非常勤職員の契約職員への登用、ワークメイトの非常勤職員 2 名採用など、退職者もあったが、新規採用による占める割合も大きい。

全事業所人件費比率は 67%となっている。福祉事業所平均約 67%を考慮すると概ね標準的な範囲内である。但し、事業所別の差異がある。

※ A3 資料 「H21-R7 経営状況の推移」参照

（表 1）

	R3	R4	R5	R6	R7	前年度差
事業活動資金収支差額	-7,503,570	-9,122,741	-9,011,429	3,443,526	-5,422,015	-1,282,231

（表 2）

	R3	R4	R5	R6	R7	前年度差
福祉サービス等収入	222,610,516	218,709,463	216,819,524	233,453,388	234,675,282	1,221,894
人件費支出	152,437,581	151,377,088	149,829,282	147,626,577	157,476,696	9,850,119

（表 3） 事務・事業費の推移

	R3	R4	R5	R6	R7	前年度差
事務費	14,543,000	14,880,345	17,949,624	16,569,591	15,716,696	
事業費	53,830,898	54,162,880	51,494,808	63,427,434	60,183,104	
合計	68,373,890	69,043,225	69,444,432	79,997,025	75,899,800	-4,097,225

以上